研　究　成　果　報　告　書

2023　年　7　月　26　日

１．所属・職・氏名　等

教養学部　地域社会学科　教授　両角政彦

２．研究課題（テーマ）名

「農産物ブランド化における産地アクターの知的資産の形成とネットワークの構築」

３．研究期間

令和３年度および令和４年度（令和３年４月１日～令和５年３月31日）

４．利用した研究費の種類及び金額

大学院共同研究費交付金（合計60万円）

５．研究の概要

日本農業の活性化方策の一つとして農産物のブランド化戦略が注目されている。しかし、先行研究では、現在の食料供給体制の下で農産物ブランドが乱立している状況を踏まえて、品質にかかわる各種認証制度などの運用による製品差別化の有効性や、市場取引での信用関係と消費者との信頼関係の構築、消費者のブランド産地に対する空間認知と商品評価との関係性については十分に解明されているとはいえない。これらの研究課題へ迫るために、本研究では、農産物のブランド化における生産・流通・消費の各過程の空間スケールと地域差に着目し、高付加価値化に向けた認証制度の歴史的変遷と、産地アクターによる知的資産の形成過程および多様なネットワークの構築の可能性について明らかにすることを目的とした。

６．研究成果等

令和 3 年度は、地域団体商標制度と地理的表示保護制度の歴史的経緯に関する文献および資料を収集して、全国における農産品のブランド化の展開の実態を把握し、研究の成果と課題をまとめた。これを踏まえて、地理的表示保護制度「GI 山梨」を事例に選定し、その登録経緯と運用状況、企業の事業展開と事業所運営、原料酒米生産農家との取引状況などについて、「Ｓ酒造株式会社」、「山梨県酒造組合」、「山梨県中小企業団体中央会」に現地でインタビューをおこなった。この調査によって、産地アクターの事業展開の革新性と組織間ネットワークの構築過程、農産品ブランド化の社会経済的な意義の一端が明らかになった。

また、山梨県上野原市における農産物・特産品のブランド化について、酒類の農商工連携に取り組むＯ商店等に現地でインタビューをおこない、政策支援に大きく依存しない地域主体による地域活性化の可能性が明らかになった。これらの調査によって、地域ブランド化における「地域」のもつ多様な意味とその歴史的な変遷、農産品認証制度の展開と地域主体に

よる事業戦略の意義についても認識を深めることができた。

令和４年度は、地理的表示保護制度「GI 山梨」を運用する山梨県内の酒造業者８社、ウイスキー蒸留所、ワイナリー等において、事業展開、事業所運営、原料酒米取引関係、出荷・販売圏などに関するインタビューをおこなった。この調査によって、農産物・食品の認証制度の運用による地域ブランド化について、地理的表示保護制度の経過と GI 酒類「清酒」の地域的特徴が明確になり、GI「山梨」の登録経緯と認定状況を把握することができ、酒造業者の組織的な事業展開から地域ブランド化のもつ多様な意味と可能性が明らかになった。

組織的な事業展開の今後の可能性として、①酒造業者による酒質の向上を基盤にしながら、事業者間のネットワーク化によって自社の個性と強みが損なわれないように独自のブランド戦略もとること。②地理的表示を経営発展の一つの手段に位置づけて、地域ブランド化の取り組みの積み重ねをストーリーとして知的資産と考えて社会的評価を高めながら品質を消費者に訴求していくこと。③現状では地理的表示で酒質の特性が統一的に明示されているが、さらに各酒造業者の立地する水系と原料や製法ごとに品質特性が異なる点を一般消費者にもわかるように伝える地域ブランド化を考慮できること。④中小規模の産地と事業者であればこそ業者間で培ってきたネットワークが鍵になること。以上の点が明らかになった。

研究期間全体の研究成果として、下記の研究実績に記した学術論文 4 編の掲載と学会発表 4 件を行った。

７．研究の実績（論文・発表　等）

（学術論文）

両角政彦（2022）:「農産物輸入規制緩和措置後の卸売市場流通の地域的変動―ユリの球根輸入と切花流通に着目して―」、『都留文科大学研究紀要』、95 集、159-190 頁。

両角政彦（2023）:「農産物輸入規制緩和措置からみた産地変動と卸売市場集荷圏の変化―ユリ切花流通を中心として―」、『都留文科大学研究紀要』、97 集、81-105 頁。

嶋本貴瑛（2022）:「農産物の地域ブランド化研究の動向と展望」、『都留文科大学大学院紀要』、26 集、69-84 頁。

嶋本貴瑛・両角政彦（2023）:「地理的表示保護制度の運用と地域ブランド化―GI「山梨」認定の酒造業者の取り組み―」、『都留文科大学大学院紀要』、27 集、81-110 頁。

（学会発表）

両角政彦（2021）:「種苗類の輸入規制緩和にともなう農産物生産と卸売市場流通の地域変動」、日本地理学会秋季学術大会『発表要旨集』、100 号、86 頁（2021 年 9 月 18･19 日、岡山大学オンライン）。

嶋本貴瑛（2022）:「農産物の地域ブランド化研究の成果と展望」、日本地理学会春季学術大会『発表要旨集』、101 号、100 頁（2022 年 3 月 19・20 日、東京大学オンライン）。

嶋本貴瑛・両角政彦（2022）:「農産物・食品の認証制度と地域ブランド化―地理的表示『山梨』清酒を事例に―」、日本地理学会秋季学術大会『発表要旨集』、102 号、126 頁（2022 年 9 月 23・24 日、香川大学）。

嶋本貴瑛（2023）:「石川県羽咋市における自然栽培の地域的受容と社会経済的意義」、日本地理学会春季学術大会『発表要旨集』、103 号、151 頁（2023 年 3 月 25 日、東京都立大学）。

以上